

横浜医療情報専門学校

平成 29 年度学校関係者評価会議事録

日時	平成 29 年 8 月 24 日(木) 13:00~14:00	
場所	横浜医療情報専門学校 3階 セミナー室	
参加者	学校関係者評価委員	中村 ふじ (神奈川県警察学校 教育参与)
		二宮 克行 (医療法人財団 明理会 行徳総合病院 事務長)
		真野 誠 (日本電気株式会社 医療ソリューション事業部 シニアマネージャー)
		渡邊 英美子 (医療法人社団 恒潤会 事務長)
		飯塚 智美 (保護者代表委員)
	本校教職員	川上 隆 (教務部長)
		小松 加代子 (教務部 次長/カリキュラム開発 担当)
		小野寺 栄吉 (教務部 課長補佐 カリキュラム開発担当)
		鈴木 和江 (教務部 主任/カリキュラム開発 担当)
資料	・自己点検評価における課題点と改善 ・当日説明用スライド資料	

<議論の要旨>

1. 学校関係者評価会実施にあたって

- ・岩崎学園も 90 周年を迎え、設立当初から続く「人間性豊かな職業人の育成」に力を入れて来た。また、職員の行動指針を整備し、一丸となってより一層社会に貢献できる人材育成を行っていく所存である。
- ・「職業実践専門課程」の設置ガイドラインの中に学校評価として「自己点検評価」、「学校関係者評価」を行うことが規定されている。今回実施するのは内部で実施した自己点検評価を踏まえた学校関係者評価である。評価委員の方々に、専門学校教育を理解する場として頂くと共に、同課程設置にあたって外部評価が重視されている事も踏まえ、現場からの様々な意見を頂きたい。

2. 平成 28 年度自己点検評価における課題と改善方策（小松）

目標として設定した項目については、概ね達成する事ができた。しかしながら、いくつかの項目において課題が見つかったため、その改善方策についてご報告する。

・教育理念・目標（1-5）

（課題）本校の理念、目的、育成人材像等について、入学時の新入生保護者ガイダンスに於いて説明を行っているが、欠席者に対する周知が不十分と感じている。

（改善方策）第 1 回目の保護者宛文書にガイダンスの資料を同封する。また、進級時に行われる保護者ガイダンスにおいても、同様の内容を盛り込む。

・学修成果（1-5）

（課題）卒業生の社会的な活躍及び評価を把握する仕組みが不十分と感じている。

（改善方策）在校生の活動については、学習支援システムへの登録により把握できているが、卒業生の活動状況を定期的に把握する仕組みは出来ていないため、H27 年度より就職先アンケートを実施している。

・教育環境（6-2）

（課題）学校設備・備品については定期的に点検しているが、管理台帳が未整備である。

（改善方策）実習室や各教室の備品については、管理責任者を明確にし、チェック体制を整える。教室内の整理整頓については、スクールボランティアクラブが主体となり、週次で点検を実施している。

- ・文科省ガイドラインに沿って自己点検評価を実施し課題点と改善について方法について報告。目標として設定した項目については、概ね達成する事ができ、中でも退学率・就職率確定率については達成率が高く、試行錯誤してきた指導法が確立されつつある旨の報告を行った。また、29 年度に向け、学科ごとに目標を定め取り組んで行く内容について説明を行った。報告を踏まえ所感を伺った。

3. 平成 28 年度の目標及び総括と各学科の取り組み（小松）

入学者については、8 年連続で増加している。また、出席率、退学率、就職確定率など数値目標として定めた項目については、概ねクリアする事ができた。中でも退学率（低）・就職確定率（高）については過去最高の数値となり、試行錯誤しながら取り組んできた指導内容が確立されつつある。各学科のトピックスは以下の通りである。

・医療事務科

医療秘書技能検定試験において 8 年連続優秀賞を受賞した。単に合格という事ではなく、付加価値として優秀賞を受賞できたことは、学生にとっても大きな自信となり励みとなるため、次年度も引き続き受賞できるよう指導を続ける。また、診療報酬請求事務能力認定試験の合格率が 28 年度も全国合格率を上回った。就職活動において大きな武器となる資格なので、次年度も合格に導けるよう指導する。

教育課程編成委員会において、内定後のモチベーション維持および主体性の育成を目的として、外部のボ

ランティアやインターンシップに積極的に学生を参加させるべきとご助言を頂き、2年次後期に科目として新設して実施した。自らが活動先を選び、連絡を取り実行するという取り組みにおいて主体性の向上に繋がった。卒業研究においては、日本赤十字社と連携し、学内でオープン献血を実施。次年度も継続して連携することを検討している。

・医療 IT 科

学外に向けたチャレンジとして、高齢者浴室見守りシステム（助けてアヒルちゃん～お風呂に出動～）の CEATEC Japan2017 への出展、神奈川情報サービス産業協会主催 学生 IT コンテストビジネス部門優秀賞受賞、高齢者見守りシステム（おうちにカエろう）の医療情報学会 優秀 HyperDemo 賞受賞など、少しずつではあるが成果が出始めている。次年度に向けて強化を図りたい。

<質疑応答・ご意見>

→クラブ・サークル活動が非常に活発に行われている事に対して、大変良い取り組みと感じている。高い就職内定率にも繋がっていると考えられるので、今後も積極的に取り組んでほしい。（二宮）

→医療事務職が注目され、多くの優秀な人材が輩出されることは好ましい事である。コミュニケーション力の高い人材を育成して欲しい。（渡邊）

→少子高齢化が進む中で、一定の入学者を確保し就職まできちんとさせる事が出来ている事は素晴らしい事である。社会に出て、価値を生み出せる学生を育てることが大切である。（真野）

→卒業生の社会的な活躍を評価する指標として、この学校で学んだ事が、社会に出てどのように活かされ、卒業生がどのように成長しているのか、時期を決めてアンケート調査を行う事が良い。1 回のみの実施ではなく、例えば 30 歳になったらアンケート、40 歳になったらアンケートのように 10 年ごとの変化を見るのも良いのではないか。（中村）

→学生指導においては、教員が学生に向かう姿勢が大切である。何をどのくらいできるようにするか、こういう事が身につけて欲しいといった、教員自身が学生に修得させる目標をきちんと定めた上で指導する事が必要と感じる。また、学生に合わせて目標を柔軟に変更する事も大切である。（中村）

→職員の行動指針を整備した取り組みは大変良いと思う。職員自身と直属の上司にアンケートを取るなど双方向のチェックを行う事で、より団結力も生まれ同じ目標に向かって行けるのではないか。（二宮）

→学科ごとに目標を定め教育をしていく事は大変良い。社会が求めている人材と比較して、今の学生に足りないものは何かを考え、埋めていく作業が必要と感じる。また、先ほど中村委員の発言にあったアンケートの実施については、社会に出てからの卒業生の伸長をきちんと計測する事が必要と感じる。多くのデータが集まる事で、教育の方向性が見えてくることもある。（真野）

→医療 IT 科において、外部のコンテスト出場は大変良い取り組みである。積極的に外部のコンテストや展示会に参加しチャレンジする事が大切である。（真野）

→学生自らが考えて行動するような取り組みがあると良い。その結果として、外部コンテストへのチャレンジなどに繋がる事が理想である。（真野）

本校卒業生の評価が高まり求人頂く機会も増えた。また、大学病院や大手病院グループに就職を決める学生も増えている現状を喜ばしく思うが、甘んじることなく精進していきたい。（小松）

委員の皆様のご意見を伺い、より良い学校運営を行うために活かしていきたい。また、外部へのチャレンジや、医療業界の皆様とも連携を強化し、社会貢献に繋がるような学校運営を目指していきたい。本日は、貴重なお時間を頂戴しありがとうございました。（川上）